

## II 各種世帯の所得等の状況

所得は、平成14年1月1日から12月31日までの1年間の所得である。

### 1 年次推移別の所得の状況

平成14年の全世帯の1世帯当たり平均所得金額は589万3千円となっており、6年連続減少している。また、高齢者世帯の1世帯当たり平均所得金額は304万6千円、児童のいる世帯の1世帯当たり平均所得金額は702万7千円となっている。(表1)

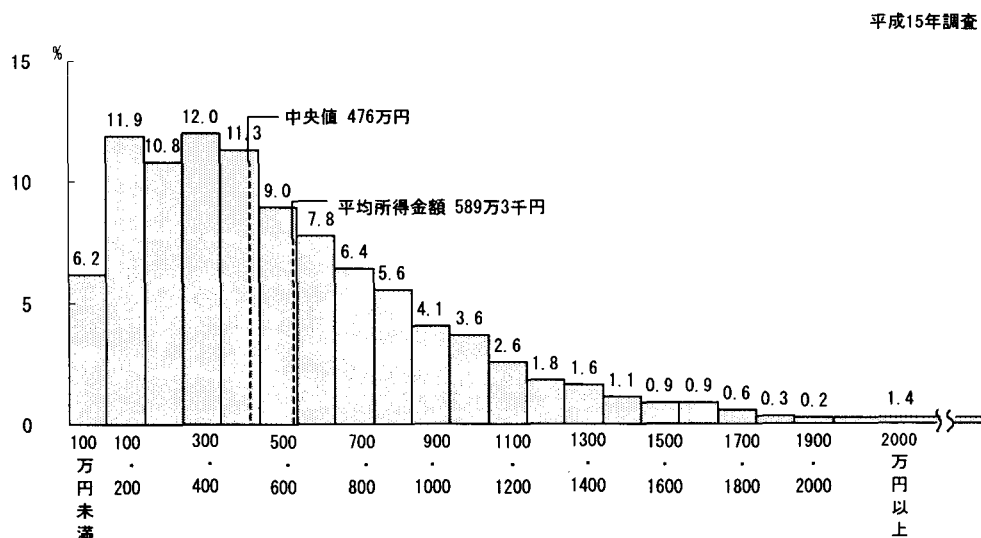
表1 1世帯当たり平均所得金額の年次推移

	平成 5年	6	7	8	9	10	11	12	13	14
全世帯の1世帯当たり 平均所得金額 (万円)	657.5	664.2	659.6	661.2	657.7	655.2	626.0	616.9	602.0	589.3
対前年増加率 (%)	1.5	1.0	△ 0.7	0.2	△ 0.5	△ 0.4	△ 4.5	△ 1.5	△ 2.4	△ 2.1
高齢者世帯の1世帯当たり 平均所得金額 (万円)	292.8	305.0	316.9	316.0	323.1	335.5	328.9	319.5	304.6	304.6
対前年増加率 (%)	△ 1.1	4.2	3.9	△ 0.3	2.2	3.8	△ 2.0	△ 2.9	△ 4.7	0.0
児童のいる世帯の1世帯 当たり平均所得金額 (万円)	745.6	758.6	737.2	781.6	767.1	747.4	721.4	725.8	727.2	702.7
対前年増加率 (%)	2.5	1.7	△ 2.8	6.0	△ 1.9	△ 2.6	△ 3.5	0.6	0.2	△ 3.4

所得金額階級別世帯数の分布をみると、「300～400万円未満」が12.0%、「100～200万円未満」が11.9%と多くなっている。

中央値は476万円であり、所得金額が世帯全体の平均額(589万3千円)より低い世帯の割合は60.4%となっている。(図1)

図1 所得金額階級別世帯数の相対度数分布



## 2 五分位階級別の所得の状況

全世帯を5等分した所得五分位階級別に所得金額をみると、最も低い第Ⅰ階級は213万円以下、第Ⅱ階級は213～390万円、第Ⅲ階級は390～582万円、第Ⅳ階級は582～880万円、第Ⅴ階級は880万円以上となっている。(図2)

各五分位階級の1世帯当たり平均所得金額をみると、いずれの階級においても前年に比べて減少している。(表2)

図2 所得金額別にみた世帯数の相対累積度数分布及び所得五分位階級別分位値

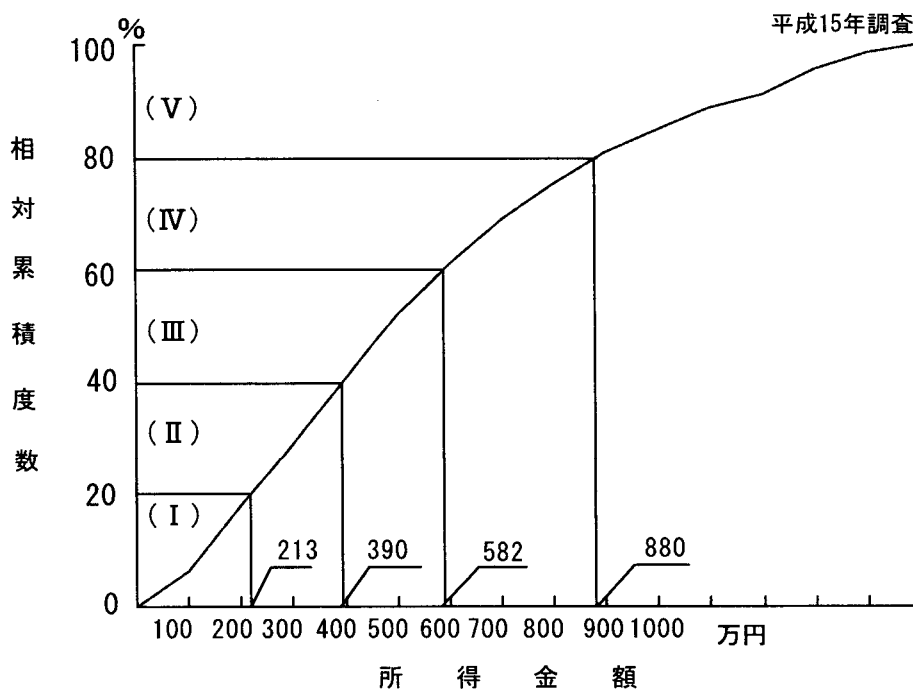


表2 所得五分位階級別にみた1世帯当たり平均所得金額の年次推移

所得五分位階級	平成5年	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	1世帯当たり平均所得金額(単位:万円)									
総数	657.5	664.2	659.6	661.2	657.7	655.2	626.0	616.9	602.0	589.3
第Ⅰ	165.9	150.5	163.1	148.4	146.9	153.8	141.9	136.5	135.0	126.9
第Ⅱ	369.1	353.5	364.0	345.5	340.8	354.9	320.0	316.0	310.4	303.4
第Ⅲ	556.6	546.9	555.4	543.3	538.5	545.8	507.1	497.4	486.1	477.6
第Ⅳ	795.2	788.8	792.3	802.7	792.7	782.2	755.0	743.3	728.8	716.3
第Ⅴ	1 400.8	1 481.2	1 423.2	1 466.2	1 469.8	1 439.5	1 405.7	1 391.2	1 349.9	1 322.0

### 3 世帯主の年齢階級別の所得の状況

世帯主の年齢階級別に1世帯当たり平均所得金額をみると、「50～59歳」が753万円で最も高く、次いで「40～49歳」、「60～69歳」の順となっており、最も低いのは「29歳以下」の320万1千円となっている。

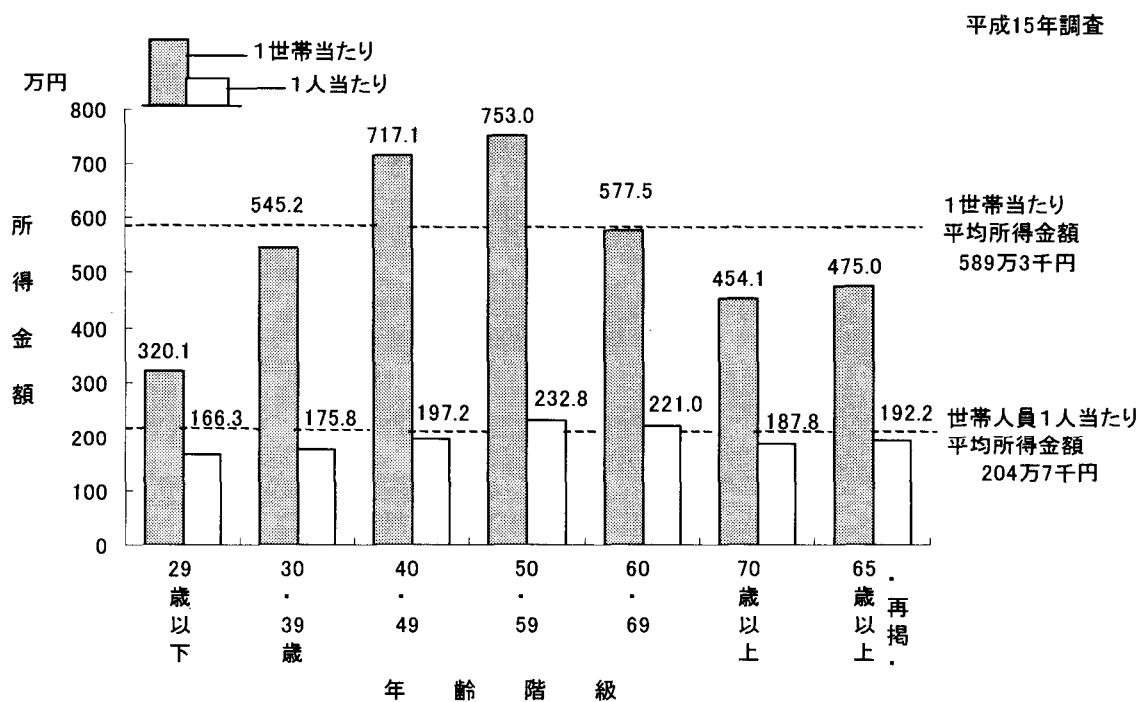
同様に世帯人員1人当たり平均所得金額をみると、「50～59歳」が232万8千円で高く、低いのは「29歳以下」の166万3千円となっている。（表3、図3）

表3 世帯主の年齢階級別にみた1世帯当たり—世帯人員1人当たり平均所得金額

		平成15年調査							
		総数	29歳以下	30～39歳	40～49	50～59	60～69	70歳以上	(再掲) 65歳以上
1世帯当たり	平均所得金額(万円)	589.3	320.1	545.2	717.1	753.0	577.5	454.1	475.0
世帯人員1人当たり	平均所得金額(万円)	204.7	166.3	175.8	197.2	232.8	221.0	187.8	192.2

注：年齢階級の「総数」には、年齢不詳を含む。

図3 世帯主の年齢階級別にみた1世帯当たり—世帯人員1人当たり平均所得金額



#### 4 所得の種類別の状況

所得の種類別金額の構成割合をみると、全世帯では「稼働所得」が79.4%、「公的年金・恩給」が15.8%であるが、高齢者世帯では「公的年金・恩給」が67.0%、「稼働所得」が19.9%となっている。  
(表4)

表4 特定世帯別にみた所得の種類別1世帯当たり平均所得金額及び構成割合

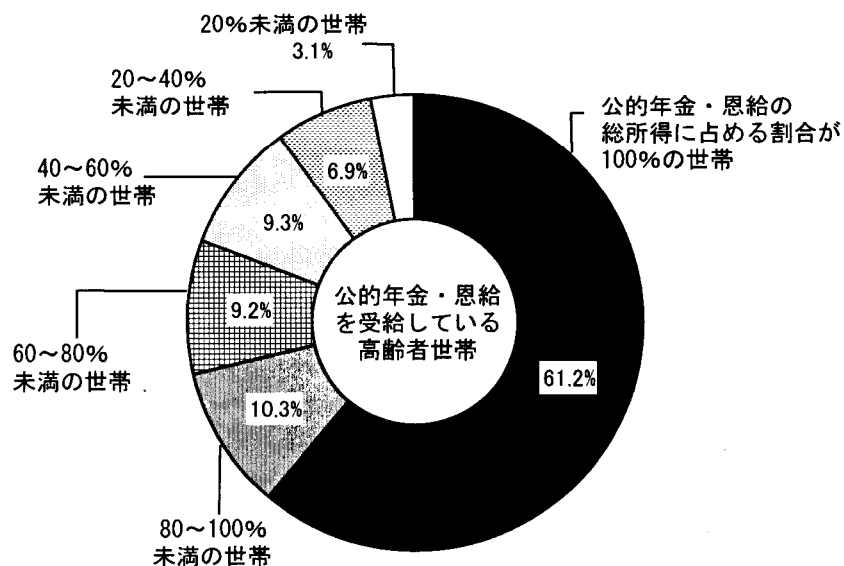
平成15年調査

特定世帯	総所得	稼働所得	公的年金・恩給	財産所得	年金以外の 社会保障給 付金	仕送り・個人 年金・その 他の所得
1世帯当たり平均所得金額(単位:万円)						
全世帯	589.3	468.0	93.3	13.4	3.5	11.0
高齢者世帯	304.6	60.6	204.1	22.5	4.1	13.3
児童のいる世帯	702.7	643.1	42.2	8.7	3.2	5.5
構成割合(単位:%)						
全世帯	100.0	79.4	15.8	2.3	0.6	1.9
高齢者世帯	100.0	19.9	67.0	7.4	1.3	4.4
児童のいる世帯	100.0	91.5	6.0	1.2	0.5	0.8

公的年金・恩給を受給している高齢者世帯のなかで「公的年金・恩給の総所得に占める割合が100%の世帯」は61.2%となっている。(図4)

図4 公的年金・恩給を受給している高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合

平成15年調査

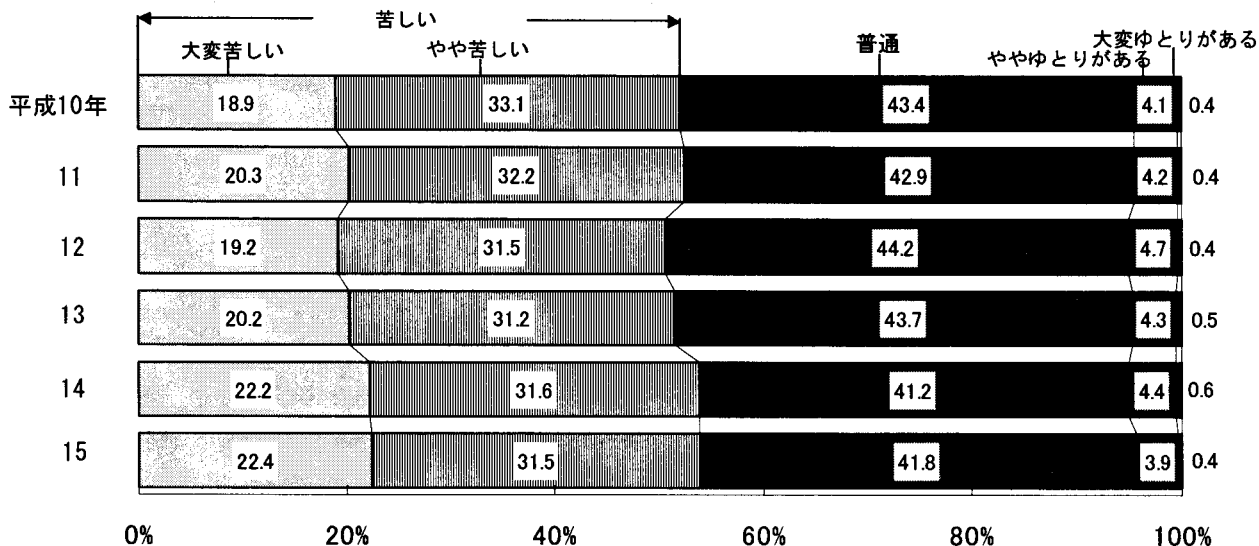


## 5 生活意識の状況

生活意識別世帯数の構成割合をみると、「苦しい」（「大変苦しい」と「やや苦しい」）が 53.9%、「普通」が 41.8%となっている。

年次推移をみると、「苦しい」の割合は、平成10年以降、5割を超えて推移している。（図5）

図5 生活意識別世帯数の構成割合の年次推移



特定世帯の生活意識別世帯数の構成割合をみると、「児童のいる世帯」では 62.8%が「苦しい」と答えているが、「高齢者世帯」では「苦しい」と答えた世帯は 47.6%となっている。（図6）

図6 特定世帯の生活意識別世帯数の構成割合

